

カトリック
大名町教会ニュース

DAIMYOMACHI CATHOLIC CHURCH NEWSLETTER †

〔ミサ時間〕主日ミサ:(土)19時／(日)7時・9時30分／英語ミサ(日)16時

[] <http://church.jp/catholic-daimyoumachi/>

〒810-0041 福岡市中央区大名2-7-7 [巡] 能古島カトリック教会 ミサ(土) 18時

TEL:092-741-3687 Fax:741-5107

〒819-0012 西区能古弁当 1621-12

発行責任者：杉原寛信神父

5

5月聖母月：コロナ感染症の終息を願って祈りましょう！

福岡教区年間テーマ：信じる喜びから 伝える喜びへ

大名町教会年間テーマ：全ての人に対してキリストの光でありなさい！

Be the light of Christ to everyone.

5月聖母月のお知らせ

聖ヨセフ年にいのる

5月1日 (土)：

・労働者聖ヨセフ

5月9日（日）：

・洗礼式（10時半ミサ）

・宣教司牧評議會

・防災点検

・教区信徒協

5月21日(金):

・おにぎりの会支援

5月23日(日):

・教会学校スタッフ会議

☆ロザリオを捧げよう。



福岡教区司教座聖堂献堂記念日感謝ミサ

4月13日、聖堂内4本の柱に灯が点され、ヨセフ・アベイヤ司教様主式の記念ミサで教区の一致を祈った。

勉強会

ジョン・ウォン Chol 神父

・入門講座（毎木曜日）10時／19時

* WEB 開催。カトリック大名町教会のホームページから入ることができます

信徒総会

6月27日(日)

2021年12月8日（無原罪の聖母）まで
『聖ヨセフ特別年』です。

「聖ヨセフの連祷」、「聖ヨセフへの祈り」を唱えることで全免償をいただけます。

ゆるしの秘蹟：5月22日（土）、29日（土）：10時～11時45分

5月には聖母月。特にマリア様について考える月です。教会はマリア様に対して、信仰の模範としての最大の尊敬を贈ります。これはプロテスタント教会とは違うところ です。

信仰の模範としてマリア様をあがめることは優れた信仰的行動であり、特にこの5月に勧められていることです。

しかし、注意しなければならな いことがあります。最近日本で活 発に活動し始めたカルト団体があ ります。「マリアの救いの箱舟」と 呼ばれる団体です。韓国のナジュ ーという場所で、ユリア・ユンと いう人が立ち上げた団体ですが、 2008年韓国カンジュ大司教区 によって断罪されました。キリス トの教えに反することを教え、ま た普遍教会の教導権に従わなかつ たからです。

最近、韓国での活動が難しくな ってきたので、こういう情報がま だ詳しく伝わっていない海外に目 をむけています。日本での活動も活発になっていきます。皆 さん、くれぐれもこのようなカル トにそそのかされることなく、正 しいマリア信心を保つようにいた しましょう。

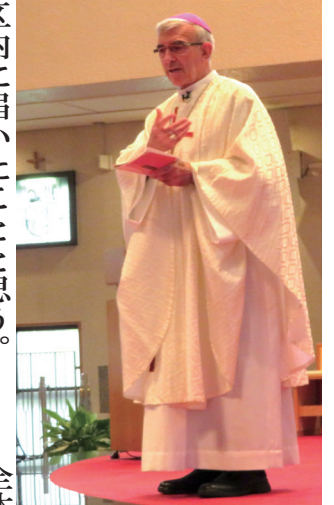
カトリック大名町教会 助任司祭
マルチエロ アペマヤ 鄭元喆 神父

5月は聖母月

1927年 福岡教区司教座聖堂献堂記念日ミサ 2021年4月13日

4月13日(火)、アベイヤ司教様の「福岡教区司教座聖堂献堂記念のミサ」で、それぞれの託された地域においてキリストを証し、社会に貢献して行くことを祈りたいと思います。」という開祭のことばで記念のミサが始まりました。

コロナ禍で、参加者は少数ではあったが、司式者と参加した信徒の福岡教区の一致への熱い祈りは、全教



区内に届いたことと思う。1896年に最初の赤レンガ聖堂が建立され、1938年に木造の聖堂が献堂された。老朽化に伴い1986年4月13日に現在の聖堂が建設されて、更に35年になる。1927年、長崎教区から福岡教区が独立し、カトリック大名町教会が福岡教区司教座聖堂となった。2027年、福岡教区は100周年を迎えることになる。

献堂記念ミサのホミリアで、アベイヤ司教様は、今日は、教区55小教区と9つの巡回教会に属する信徒一人ひとりが教区全体の一致を育て、深めていくように祈る日である。また、福岡教区が世界のカトリック教会家族の中にあることを感謝し、一致できるよう共に祈ろうと次のように呼びかけた。

「私たちは今日、司教座の献堂記念日を祝っています。1986年にただ建物が建てられたことを記念するだけでなく、ここに司教座を置いてずっと歩まれてきた共同体のことを記念します。1896年からここに建っているこの聖堂は、周りの人々にも福音になってきたでしょう。この教会を拠点として自分の信

仰を養っていった人々もいたでしょう。集いや出会い、喜びの場になっていったことでしょう。ここは勝利の聖母に捧げられた教会となっていますが、聖母の勝利は、戦いによってではなく、愛と慈しみによる勝利です。司教座聖堂の献堂記念は、教区全体の一致を思い起こし、一致が育つてくるように、深まってくるように祈ることでもある。福岡教区は、福岡、佐賀、熊本に55の小教区、9つの巡回教会があります。それぞれの教会で集って信仰を養っている。そこから派遣されて、それぞれの地域で福音を宣教している人々のことを思い出して、これからのことを一つにして歩んでいく恵みを祈りましょう。また、福岡教区と世界の教会の一致を思い起こします。全世界のカトリック教会の家族の中に共にいることを感謝して、一致できるように祈ります。違った国で、違った状況の中で、証している兄弟姉妹と共に歩み続けていけるように願い求めましょう」と。

コロナ禍の中での記念ミサに、司祭団も信徒の参加者も少数ではあったが、アベイヤ司教様の熱い思いが聴こえた。

「教区全体が一つになって、世界の教会と共に助け合い、キリストの平和が広がるように努力しよう。それには、身近にいる助けを必要としている人、孤独にしている人に気づくこと、その方々の声を聴くこと、互いが赦し合うことです。」と。

コロナの終息を願い 感謝と祈りで

パンデミックの中、医療従事者、市民の生活に欠かせない仕事に従事しているエッセンシャルワーカーの方々に、アンジェラスの響きは、祈りと感謝を届け続けている。毎金曜日の14時。1年を迎える5月。鐘の響きに不思議そうなお顔があることに気づき、もつとアピールする方法を考え横断幕を作成した。2枚。「医療従事者のみなさん、ありがとうございます」「エッセンシャルワーカーのみなさん、ありがとうございます」。賛同していただくお顔が増えた。



5月(聖母月)中は、鐘を響かせた後、ロザリオで祈ります。

よろしく



4月から大名町教会に宣教師司牧実習でお世話になっております。福岡カトリック神学院神学科1年の吉浦 勲です。出身は佐賀県の伊万里教会です。昨年度、神学院の哲学科を修了し、2月23日に助祭・司祭候補者の認定を受けることができました。私は、認定を受けてから初めての実習先が一体どの教会になるのか、かなり気になっておりました。そんな折、実習先が大名町教会に決まった旨をはじめとお聞きしたときは、「え？」というのが正直な感想でした。同時に、このタイミングでカテドラル聖堂である大名町教会の実習生として、私のような人間が果たして相応しい人間なのかという不安もありました。この不安がある神父様に相談してみたら、「このタイミングで大名町教会にお世話になるということはあなたの司祭召命にとって必ず大きな実りになると思います。」という言葉をいただき、私の気持ちは大きく変わりました。まだまだ未熟者ではありますが、皆様との交わりを通して、私自身大きく成長していければと思いますので、1年間どうぞよろしくお願い致します！

イグナチオ 吉浦 勲

中高生会

4月18日(日)ミサ後、久しぶりに中高生会を行いました。

中高生会には、堅信後から高校3年生までが在籍しています。教会活動としてはパーティの司会、クリスマス会での出し物、バレンタインデーのチョコ作り等、交流を深めてきました。コロナ禍になり、Zoom等のインターネットを利用した聖書の分かち合い等を行いました。他教会と合同で行ったこともあります。今回の中高生会は、久々の対面ということでゲームやコロナ禍での生活の分かち合い、現状下でどんな活動ができるのかも考えました。感染拡大が懸念される中、短い時間を交わす時間になったと思います。今回を通して、月1でも、2か月に1回でも対面での中高生会を続けたいと思います。

中高生会のモットーは「楽しく」です。楽しみながら、信仰生活を歩むには「ななま」(友達)が大切です。中高生時代は「ななま」をつくる大事な時期だと思います。しかし今、教会学校では、緊急事態宣言や変異株の感染拡大をうけ、初聖体クラスと堅信クラス以外は夏までの対面授業の保留が決定しています。私たちは神様を通じていつもつながっています。しかし、同じ時を過ごしている今、つながりを感じるにはどのような形があるのかを模索する今日この頃です。そして、早く安心して交流できる日が戻ってくることを祈っています。皆さまも子ども達のためにお祈りをよろしくお願いいたします。教会学校 中高生会スタッフ ミカエラ 荒牧結花



かぜのささやき

礼拝会は大名町教会所属の唯一の女子修道女会だ。「いま・ここ」に生きるシスターたちの存在を「かぜのささやき」として少しずつお伝えできれば嬉しい。

まずは礼拝会の会憲から。「聖体と愛徳のはしため礼拝修道女会は聖マリア・ミカエラによって1856年にマドリッドに創立された。聖霊に動かされ、聖体のイエスへの強い愛に駆られて、聖女は抑圧された女性を解放し、当時の社会の緊急の必要に応えた。」(基本的会憲1) 四旬節から復活節にかけて毎週のように、うちの90歳のシスターに感謝の葉書が届く。「シスターがいたから今の私たちの家族があるんです。あの頃お腹の中にいた子どもは30歳になりました！」ポリビアでの宣教体験のあるシスターは当時オーバーステイとなった南米の方々のために入管へ行き、通訳をし、教会で滞日外国人のために司牧していた。

昨年、礼拝会のある共同体にも仮放免のひとりの女性が滞在された。「暴力・政情不安」から逃れるために来日したがオーバーステイとなり入管施設に収容されていた末期がんの状態にあるカメルーンの女性だ。難民認定も在留資格

も得られず、キリスト教関係者が東奔西走して情報とお金を集め支援されていた。(NKK ニュース「無保険の外国人 いのちをどう守るか」2021/1/27より)。病状が悪化する中、修道院に辿り着き、お祈りをして秘跡を受けることができた。シスターたちは看取りも覚悟したが、人と人とのつながりには主が存在し、諦めていた入院が実現した。入院の日、彼女が「戻ってくるから」と言った言葉をシスターたちは忘れられない。そして今年の1月21日「在留資格を出します」と、弁護士が入管から説明を受けた。朗報が出る一方で1月22日彼女はほぼ寝たきりとなり、その朗報を伝えたがあまり反応はなかった。そして1月23日早朝、神のみもとに旅立った。一人の女性の死が沢山の現実を明るみにし、私たちに問いかけている。

「復活したイエスは両手・両足そして脇腹に深い傷を持っていた。心身の辛い試練に苦しむ時、人はこの傷の中に希望という恵みを受けろ。」(教皇フランシスコ2021復活祭メッセージ)。

「あの頃と何も変わっていない」。それでも「私たちは今日、女性が置かれている脆弱な現実からくる挑戦に取り組む」。(第8回礼拝会拡大総顧問会文書2020)

聖体と愛徳のはしため礼拝修道女会 福岡修道院 Sr. 藤田優香

4月の宣教司牧評議会

検討事項

1 副会長の選出について

里村泉さんが、教会事務職員に雇用されることに伴い、後任の副会長に、青年会の林田明日香さんが推薦され承認。

1期3年、残り2年をお願いする。

2 事務職員の雇用について

里村泉さん、平田静枝さん2名を採用。

4月13日より勤務開始。

3 教会内備品、物品の調査

評議会終了後各担当者が調査。後日、整理と保管を明確にする。

4 訃報の周知のお知らせについて

①信徒の訃報は信徒総会にて確認し、共有する。

② LINEを用いた周知方法の説明

と運用についての検討する。

③ ために、評議員間のグループ

LINEを実施してみる。

5 信徒総会について

① 6月27日(日)10時30分ミサ後大

聖堂にて開催。

② 大聖堂空調老朽化に伴い、取り替

えについて、総会にて審議する予定。

6 おにぎりの会から依頼について

① 5月21日(金)大名町教会が担当

する。

協力願いは、後日案内。

② 5月から10月にかけて、毎月1回

福岡地区各教会で持ち回りで協力

することが検討されている。

7 聖週間の振り返り

① 事前予約の形はとらなかつたが、特別な混乱はなかつた。次年度も同様な方法を実施検討。

② 感染予防のためローソクを個人で持参することにした。

その他

① 教会裏側の駐車場付近

での数ヶ月に亘る漏水が確認され補修工事を行った。

② 今後もこの付近の水道

管の、破損の恐れがあるため、駐車禁止などを検討する。

報告事項

① 1 女性の会代表の選出について

② 4月25日(日)10時30分ミサ後に

集まりを持ち、代表者が選出され

た。

・代表：内堀綾子さん

・協力委員：土肥泰子さん

・(協力委員)：鈴木尚美さん

5月度宣教司牧評議会での報告。

その他

1 信徒より業務用消毒液の寄付あり。

2 福岡教区の、動画配信機材1式

を大名町教会で保管している。

3 ミサ終了後の退堂は、感染拡大

防止のため、司会者の指示に従う

ことを徹底する。

◆ 4月の現勢はありませんでした。

2021年度大名町教会宣教司牧評議会評議員

議長 評議会 司祭主任 司祭 助任 司祭 信徒会 会長 信徒会 副会長 信徒会 副会長 財務部 財務部 典礼部 総務部 (防災) 総務部 (防災) 行幸部 総務部 (書記) 営繕部、施設管理部 広報部 総務部 (ふれあいの集い) 営繕部、施設管理部、総務部 (防災) 宣教部、総務部 (信徒会館・お通夜) 美化部 女性の会

杉原寛信 鄭元喆 濱崎公夫 久志昇 林田明日香 岩村清貴 緒方みゆき 大石和枝 櫻木裕 杉山輝文 竹原実 田中利幸 豊嶋司 浜崎敦郎 原山映子 増山力 目良豊 森川幸夫 内堀綾子

福岡県の緊急事態宣言を受けて
*5月12日から、5月31日までの公開ミ
サを中止いたします。
中止となる主日ミサ：16日、23日、30日

会長のつぶやき

見知らぬ方からの突然の手紙

♪神のそそがれる目は、神をおそれるものに♪
全く見知らぬ方から

の突然の手紙。

読み進めるうちに15年前、単身赴任長崎勤務時に知り合ったご夫婦とご縁があり、去年まで年賀のやり取り。『妻はホームへ、私は元気です』と、ところどころが甥にあたる方から「オジが行方不明。御存じない

か」との内容。ご高齢の中、お一人で生活されておられたのでしよう。「残念ながらお役に立てず」と連絡。

その方の思い出は、沢山の種類の竹とんぼを作り、小学校にプレゼントされていたこと。老いても尚、手作りの玩具を大切な子どもたちに伝えたい。あの節くれだった手を思い起こす。

大名町教会のご高齢の兄弟姉妹の顔を思い浮かべます。コロナ禍。少子高齢化の時代。巣籠もりによる孤独。孤立の中にいる高齢者。生活困窮者の町民委員や町内会のふれあいの見回り隊の方々、おにぎりの会の方々の積極的な活動を身近に感じる時、私はあの方の安否とコロナの終息を祈ります。

コロナウィルスは、信仰共同体の生きるべき道を教えているようにも思えます。ヨセフ年、ヨセフの夢を持ち、己をささげる忠実な生き方に、共同体も学び歩みたいものです。最も小さな共同体である、家族。たとえ一人でも、父や母子。そしてご高齢の方々のお顔を思い起こしながら祈りたいものです。天の父よ、みくにが来ますように。アーメン。

大名町教会信徒会長
フランシスコ・ザベリオ
濱崎 公夫